ふくしま“ユニバーサルデザイン”メールマガジン第１４９号をお届けします。
□◆

ふくしま“ユニバーサルデザイン”メールマガジン

第１４９号／２０２３年１０月３０日
《発行者／福島県生活環境部男女共生課》

◆□
―目次――

◆お知らせ
・ふくしまＵＤ推進会議　市岡綾子副会長より
ＵＤについてお話いただきました！

――

◆おしらせ

┌――――――――――――――――――――――――――――――――――――――┐
ふくしまＵＤ推進会議　市岡綾子副会長より
ＵＤについてお話いただきました！
└――――――――――――――――――――――――――――――――――――――┘

県では、福島県におけるユニバーサルデザイン社会の実現に向け、社会の各種サービスを提供する事業者や団体とサービスを利用する生活者の双方が参加して、県全体で推進していくため、「ふくしまユニバーサルデザイン推進会議」を設置しています。
今回は、ふくしまＵＤ推進会議の市岡綾子副会長（日本大学工学部建築学科専任講師）より、「学生がイメージするユニバーサルデザイン」、「思いやりＵＤ＠バンクーバー２０１４」としてＵＤについてお話をいただきました。

▽「学生がイメージするユニバーサルデザイン」▽
福島県内ではユニバーサルデザインの認知度が伸び悩んでいると、ふくしまユニバーサルデザイン推進会議内で毎年報告されることもあり、昨年度から本学部建築学科１年次生対象の講義科目「ロハス工学入門」において、オムニバス講義で「住環境とユニバーサルデザイン」と題した１コマ授業を２名の教員で分担しています。今回、メールマガジンを担当するにあたり、この授業を受講する学生を対象に、ユニバーサルデザインに関する簡単なアンケートを実施しました。気になる「ユニバーサルデザイン」の認知度は、授業の一環で行ったこともあり、知らないと回答した学生はわずか４％しかおらず、概ね知っている結果となりました。福島県による県民調査では６５％程度（令和３年度調査

結果）ですので、大きく上回る結果となり、ホッと安堵いたしました。しかしながら、「言葉は知っていても内容はわからなかった」学生は１７％でしたので、実はよくわからない学生が２０％余りとなります。「簡単な概要を話せる程度は知っている」学生は最も多く７５％弱、その一方で「７原則を理解していた」学生はわずか５％でした。
特に建築学科学生の場合は物理的な環境の視点から捉えるため、バリアフリーは障がい者のバリアとなるもの・ことをなくすこと、ユニバーサルデザインは誰もが使いやすいようにすることと理解をしており、ともすればユニバーサルデザインはバリアフリーの発展形と理解している傾向も見られます。ユニバーサルデザインはあらかじめのデザイン、バリアフリーは後からのデザインという考え方の違いを理解し、ユニバーサルデザインを実践してほしいです。

身近なユニバーサルデザインとして一例を挙げてもらうと、シャンプーとリンスのボトルに付いている凹凸デザインが最も多く、手すり、自動ドア、ピクトグラムなどの建築要素は比べると少ない結果でした。今後の様々な建築分野の学びを通じて、建築的視点によるユニバーサルデザインを日常的に捉えることを忘れずにいてほしいと願っています。
心のユニバーサルデザインとして今後実践したいことも尋ねましたが、講義で紹介したバンクーバーのバスでのエピソードを踏まえた、公共交通機関で席を譲るという回答が最も多く、設計時にはユニバーサルデザインに配慮したいという建築学科ならではの回答もみられました。日々の生活の中でユニバーサルデザインの考えを無意識に行動できる、すなわちふくしま型ＵＤ「思いやりのユニバーサルデザイン」を日常化してほしいと、学生に期待しています。

▽「思いやりＵＤ@バンクーバー２０１４」▽
約１０年前に、カナダのバンクーバーに約４か月滞在する機会がありました。当時の経験を思い出しつつ写真を見てみると、ユニバーサルデザインが生活の一部として一般化しているライフスタイルであったと強く感じます。そこで、紙面の許す限り、バンクーバーで見てきたことを紹介いたします。
まず、暮らしやすい都市として知られるバンクーバーは多様な地域からの移民が多い都市であり、多言語化は当然ですが、ピクトグラムも多用されています。日本から到着した空港で目にしたのは、英語、フランス語、中国語、日本語、ハングル語、アラビア語の６か国語が併記されていたことです。２０１０年のバンクーバーオリンピック開催が大きく影響していると思われますが、多言語化されている数が日本よりもはるかに多いことに、ユニバーサルデザインとして捉える対象の大きさの違いを感じました。

住宅地では、歩道と前庭を一体的に見せ、目にも美しい芝生を生かした環境とする一方で、バックヤードとなる道には各戸の駐車場が面し、細かく分別され曜日ごとに決められているゴミが出されています。住宅地の道は全て同じではなく、表通りと裏通りに分けた計画がなされています。この考え方は中心市街地でも同様の傾向がみられ、都市構造上のバックヤードを見せずに、賑わいを創出すべく美しい街並みを形成する、あらかじめのデザイン上の工夫が読み取れました。住宅地での可燃ゴミに関しては、キャスター付きの細長い同一デザインのゴミ箱を全住戸が使用しています。そしてゴミ回収の際、車からアームが伸びてきて、各住戸前にあるゴミ箱を自動で持ち上げ、車内にゴミを収集、自動で元の位置に戻していました。人が車から降りてくることはありません。ユニバーサルデザイン化されているシステム自体に非常に驚くとともに、ゴミ収集時の道の景観にも配慮しているように感じました。美しい景観に目を奪われがちですが、日常生活におけるバックヤード的空間においても、統一感を持たせ、ゴミ収集の状況を少しでも美しくなるようにシステムを構築している、あらかじめのデザインに感銘を受けたことを思い出します。

まちなかの案内地図をみると、必ず徒歩１５分圏内の円が表示されています。英語とフランス語の併記は当然ですが、徒歩１５分は１ｋｍ（０.６miles）と明記され、さらに徒歩１５分は自転車で５分、車いすで２０分と凡例に表示されています。健常者だけではなく、誰もが自立してまちを移動していることを意識した表示です。案内地図を見てまちを巡る人々の姿を豊かに想像している、これこそユニバーサルデザインだと思います。

最後に、学生にも印象深く伝わった路線バスでの話を紹介します。
バスに乗っていると、毎回感動的な場面に巡り合いました。バンクーバーでは極めて当たり前の日常ですが、わたくしには衝撃的な出来事でした。バス停に高齢者が待っている姿を見ると、若者が何も言わずに席を立ち、待っている高齢者の人数分の空席ができます。事情を知らない（大概は留学生と思しき）若者が席を立たない場合、高齢者が乗り込む前にバス運転手が席を譲るよう呼びかけます。若者がイヤフォンで音楽を聴いているなどの気が付かない時は、周囲の乗客が席を譲るよう教えます。
したがって、バス停から乗り込む（当然低床型バス）高齢者は必ず座れることがわかっているので、車内に聞こえるように大きな明るい声で「Thank you！」と挨拶しながら乗車します。皆が笑顔です。同じ時間を共有するバス車内の空間が非常に心地いい公共空間となっていました。カラフルや派手なヘアスタイルの方、痛そうなところにピアスをしている方、大なり小なりタトゥーをしている方など、ちょっと身構えそうな印象の若者であっても、皆さん笑顔で率先

して席を譲ります。そして、下車する際には、バス運転手に「Thank you！」と乗客全員が挨拶しています。安全運転かつ心地よい空間づくりへの感謝の表れと感じました。
日本でも思いやりシート（かつてのシルバーシート）では、席を譲るようにと周知していますが、席を譲る行為はマンツーマンの密なコミュニケーションを要します。その際には相手のことを考える時間と思いが生じますので、少なからずプレッシャーやストレスを感じる状況のように思われます。自家用車中心の生活ではありますが、バンクーバーの事例を体験してからは、バス乗車時には双方が気持ちよく席を譲り合えることを意識し、また、運転手には安全運転への感謝の気持ちを込めて「ありがとうございました」と挨拶し下車しています。挨拶から始まる思いやりのユニバーサルデザイン、ふくしま型ＵＤです。

＝＝　担当より　＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

今回は、ふくしまＵＤ推進会議の市岡副会長よりについてＵＤについてお話いただきました。
建築学科の学生のＵＤ認知度はとても高いことが分かりました！このアンケートを機にさらにＵＤへの理解を深め、こころのＵＤを実践していってほしいと思います。また、バンクーバーでは、ＵＤが生活の一部となっていてハード面だけでなくソフト面でもＵＤが当たり前となっていることがとても素晴らしいと感じました。市岡副会長、ありがとうございました。
県内のＵＤの取組や、それぞれ専門分野からのＵＤの視点でのお話など、知る貴重な機会と思います。これからもＵＤ普及についての取組を実施してまいりますので、よろしくお願いいたします。
＝＝＝

＜発行＞
福島県生活環境部男女共生課
〒９６０-８６７０　福島市杉妻町２-１６
電話０２４-５２１-７１８８／ＦＡＸ０２４-５２１-７８８７
電子メール danjo@pref.fukushima.lg.jp
ウェブサイト http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16005c/
当メールマガジンでは、固有名詞を除いて、ユニバーサルデザインを「ＵＤ」と表記しています。
ご意見やご感想、また、ＵＤに関するイベント情報など、お気軽にお寄せください。